

新武乃傳來記

五

13  
3270  
5



特  
へ13  
3270  
5



好文堂

新武道傳來記

卷五

法心歌対

目録

才一

姥楊又う比でりく次大喧喚

遠れりものる業出と差路

才二

廻くふ相討ち仇

主人の罽服袴よりよしの入水



才三 一樹乃風吹分一校

他人を親類の情におもむく人

焼杉又さるめであらと大喧嘩

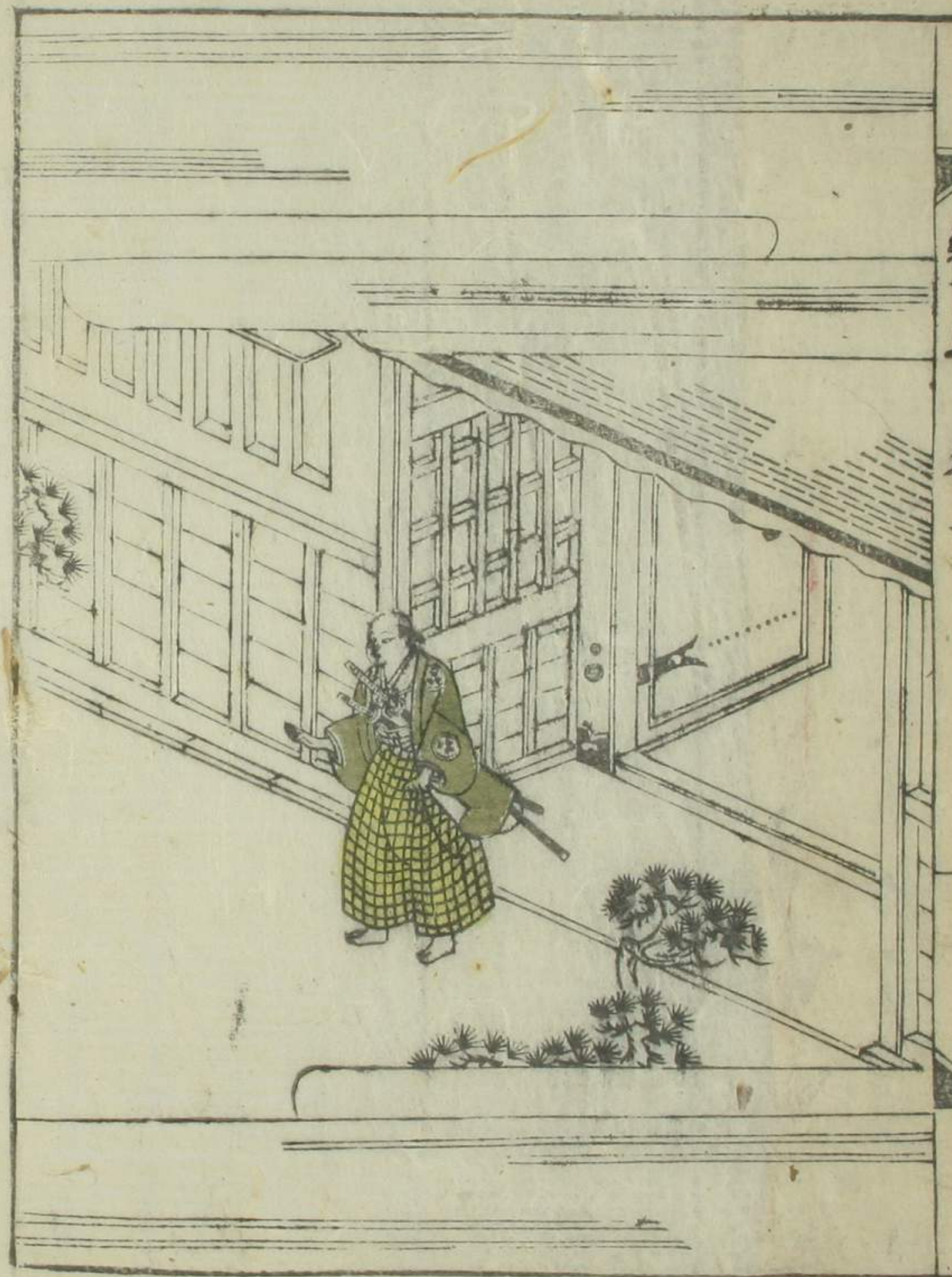
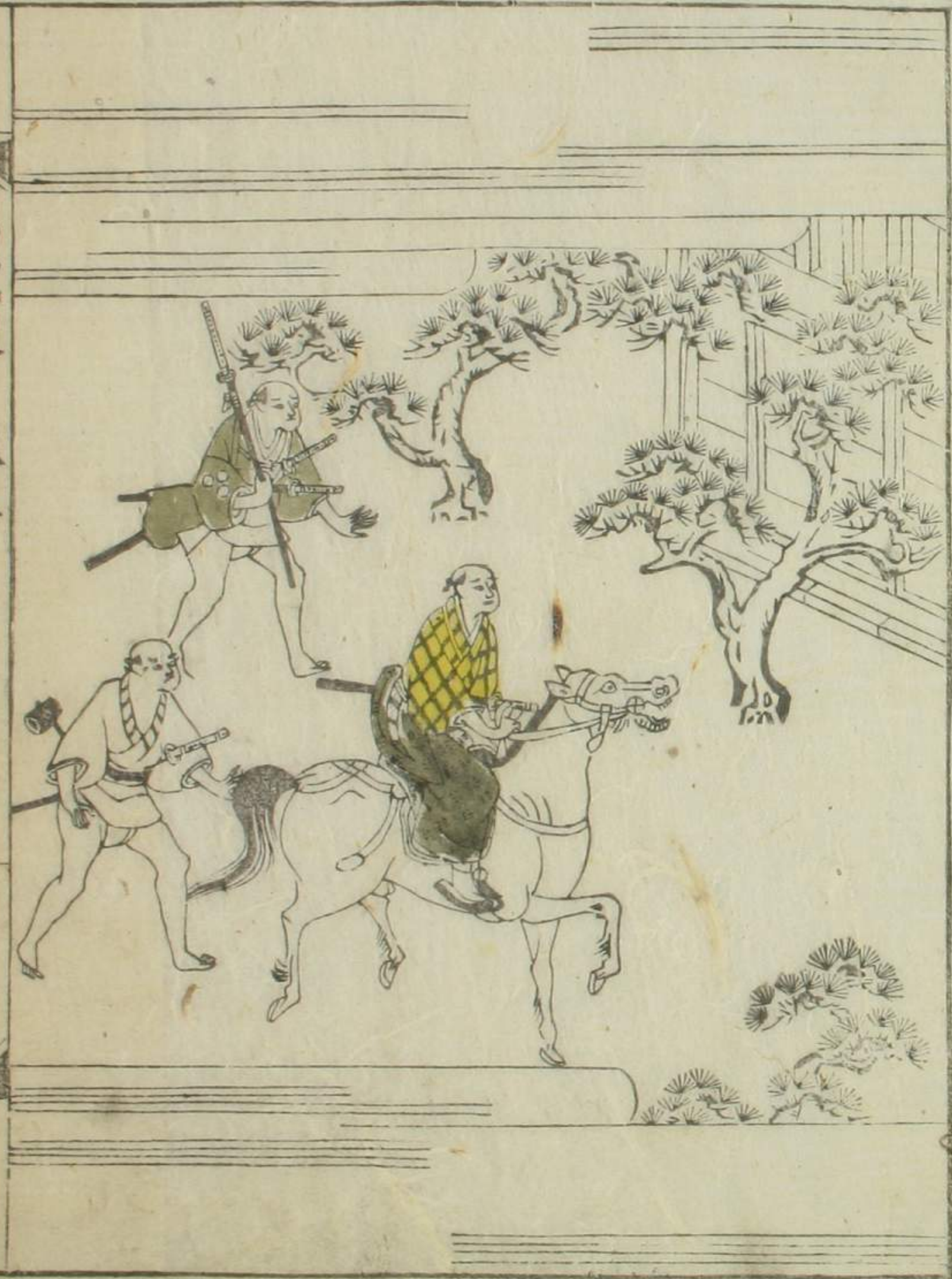
矢継ぎ根のあり敷目録のまき書一りぬまははるる家  
の家申れ候まじいぬぬれうあまやとそら港渡御軍  
法法炮らぬわそびまは目録に講小袂は乱幕の  
ハ敷り大げなげらららら焼とどろとどろとぬびとぬけ  
三線り船をいそるんぞらぬのそわもどいあの中ふぬ  
らるまのわらわはえをのりとして船をわらわはぬけ  
とらてと揺らぬ野をいせせかゝらるまぞぬやんも  
らるぬぬんぞらぬのんぞらぬのんぞらぬハ林田をぬの  
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
者ぬぬ太守ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ



口も沙で用ケりしとわては彼のあざむくもたれは  
でいひかきあがりまきこりやとまきりまてとてせ  
まふまやほてしよ二の丸れ船のこもく出りあは  
淡田宮の船田はわかと渡人をわかれとて一歩あは  
堂がやむびんまぬふでまのまけらるるま  
てごしやらほらとありま後一途あはらわらぬか  
ゆよにまゆしるひるハ皆ゆを所のお元の一ま  
まれたしよ。源二郎ハまごはるまにまぬま  
あれど。あかになとまぬまにまぬまにまぬま  
向全町の派を對がを見物しあしひつと。皆く城門  
しりつるまぬまの死よ派をまかそとまぬまにまぬま

源次良ハはるふそれま。まき物ハはのまき物ハ  
家中一といよま後まらるままき物ハ侍りし似り  
遊女とまぬましまらるま不似子方なまま  
まらるまらるまのまらるまらるまらるまらるま  
かまらるま入折る。川井孫分る白も十五歳と。番  
まらるまらるまらるまらるまらるまらるま  
らるまらるまらるまらるまらるまらるまらるま  
あはらるま源次良がらるまらるまらるまらるま  
わらるまはらるまらるまらるまらるまらるまらるま  
まらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるま





ひまどりはころやうとてさくしり。宿へもつらうの  
り来りしにけり。喧嘩の音尾あふあふし。ま  
まも物も二人おむろく。目奥乃言。怒極り。あ  
ましくおびおも。成とてい。例上へ。敵切後。止し。女は  
あし退て。敵の名。字とて。ま。七父への孝。ひ。く。  
其方とも。交。洋。ふ。あ。う。は。田。何。のお。も。あ。う。と。と。も。  
ほ。く。さ。来。つ。あ。れ。か。り。え。せ。の。能。は。ゆ。を。く。敵。様。乃。佛。を。と  
と。め。二。人。と。と。に。切。後。よ。及。び。大。死。せん。ハ。念。念。の。ま。ず。り。  
わ。ら。し。あ。ず。用。い。ど。ん。ハ。七。世。の。幼。童。な。り。と。や。く。と。う。り。  
ま。ま。ゆ。こ。れ。え。ん。ら。ま。く。圍。り。か。り。能。家。中。の。同。倍。り。  
近。は。う。ら。う。け。つ。と。作。葺。乃。く。と。く。門。前。と。り。あ。い。じ。

ままのりもやりのく。うらなむ。後。ま。西。と。う。れ  
物。川。ま。ま。来。ぬ。移。ん。の。う。ら。ま。そ。乃。う。へ。女。の。り。こ。二。人。と  
て。あ。く。背。た。う。に。退。と。二。人。の。老。を。わ。り。に。あ。り  
て。や。う。と。ぬ。一。前。分。ハ。それ。ら。敵。を。同。射。に。射。し。後。  
乃。ま。ま。と。の。べ。と。う。ら。あ。り。と。う。け。い。え。何。乃。ゆ。せん。ご  
う。れ。に。と。その。ま。く。れ。ら。と。ぬ。ぶ。脇。を。成。り。さ。ぶ。う。く  
腹。ふ。つ。と。う。ら。ま。の。敵。老。同。射。を。む。と。と。く。と。く。と。う。ら。ま  
さ。せ。く。お。ほ。り。り。原。二。希。が。射。し。と。も。兄。が。う。と。れ。と  
ま。ま。り。十二。ヶ。は。造。酒。と。物。ま。ま。で。ま。ま。と。物。が。方。に。け。れ  
け。ひ。こ。ら。う。内。よ。と。う。入。ら。ん。と。ま。れ。ど。も。門。前。と。う。く  
と。り。か。え。で。役。人。の。印。か。う。ら。ふ。入。ら。ぬ。ま。ま。も。危。わ。ら。う。と。に



せめておのりてはるゝとるりの内もさびくこととせんとす  
革とくも股とくも皆くもいふかゝあつたまら  
はをばしつゝのほしめたるこゝろをたふすべしとてかく改  
うとつて狼藉ありとて改めてけふやそとてとく  
むらうとほしめたるまじきまじきものいふ  
はもどとてやめとて改めるといふはまを  
大目行山むか和寺戸右とて改めるといふは  
兄源は布依とて人運はとて改めるといふは  
妻と和一人は討つるといふはわくとて改めるといふは  
とけもてうこれとつとて改めるといふは  
あゝとて改めるといふは

ふさつとつりたり。妻と和或人なり。是も亦をも切後子  
く。師をめても堪忍ありとてと。事とつとつと公なり  
に身二人はかちるを退くといふは極れ。ゆゑに修願十  
九条の妻違刑律ハ各々の中分をうら。苗人の妻と和つ  
と。独切後と和の上が外小治養とてまよひとて事にあつた。  
は小保の良もといふ人の人なり。運のつとて二刀にこ  
らまはれとせ。このおのりたれとつとこれ。和たかれ  
あつた。是れはあつた。和のむかひをうら。このつとつ  
と。つとにせん。とてと。今終つて改めるといふは。代の  
を。修養と見えん。とて。源は命なり。死骸とひとせ。あつ  
た。このつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

うとちうとこの家の中はけさのつうとまきみみ  
のちと吹らう

奥ついでに相討の仇

夕那れ花もぎうろく夜あけく後奥のをれり戸  
ケラうはけいさげいさきは萩をいひもつひこれ  
こも後の花もぎりかんとらうくの後をかぎれを  
うれあがりこつひあが。その中とえれば萩のは  
このそれらうで色あまりのりりあをくううよん  
どの異体衣。これらうぞやさんよんせこののたけ  
こやうさひぐせんこらう。梅川中を橋あきあう  
いふさうとよひけのえう密魚ゆへたがたをのゆこのさう

ときえんぐむひおでして。どうあう。は萩あう  
やちまう。えれで中あひあちまう。あうう。は  
救通の文もさき来大よらう。二人たお討てま  
るう。せ。處と。おき流う内房の老母。これい家の毒  
らうと。一命とらうひあまらう。男も女もわさまら  
て。四中と逃放とあお捨て。半さ来も。是と後あせり。は  
ちまう。こ。ハ。あ。ら。う。出。さ。あ。こ。ひ。か。前。の。わ。ら。う。あ。ら。う  
し。は。あ。う。今。こ。ら。う。こ。ら。う。大。悪。う。あ。ら。う。う。  
却。ら。あ。さ。あ。あ。根。こ。ら。あ。う。う。け。さ。あ。う。こ。ら。う。と。あ  
と。し。の。さ。ハ。領。う。う。わ。ま。あ。あ。な。れ。は。是。候。と。ま  
退。者。田。の。宿。あ。さん。が。姉。の。丈。う。こ。ら。う。て。さ。ら。う。う。方。う

いらしてこれだけだ。主婦乃（女）髪（髪）の（と）ゆる（ま）で（う）こい  
 て（あ）よ（と）そ（か）ら（ま）居（い）ら（り）な（さ）る。四（よ）又（また）志（し）ま（わ）へ（ん）に（む）い（え）  
 色（いろ）く（も）ま（し）な（か）ら（ぬ）事（こと）あり。こ（の）恨（い）骨（こ）髓（ずい）よ（る）り（と）  
 ち（か）に（と）し。夏（あ）衣（い）よ（わ）い（ど）て（独（ひとり）別（わか）れ）を（仕（つか）し）ら（り。梶（か）  
 原（かはら）糸（いと）及（およ）と（付（つ））な（る。林（はやし）田（でん）吉（きち）之（の）初（はつ）志（し）を（希（い））ふ（ふ）に（あ）  
 と（れ）て（ま）退（とりの）一（いち）事（こと）を（梶（か）す）衣（い）よ（わ）い（ど）（づ）こ（づ）ま（す）あ（た）ん（と）  
 も（の）に（あ）は（ゆ）へ（ん）定（さだ）めて（ま）ま（と）服（ふく）と（し）う（づ）ま（し）と（我（わ）が）恨（い）  
 と（う）ん（と）ゆ（よ）ず（の）分（わけ）あ（ら）む（や）と（し）て（ま）主婦（か）は（ま）嘉（か）  
 そ（れ）よ（う）と（け）く（と）ぬ（ら）ぬ。梶（か）す（衣（い）よ）わ（い）方（か）へ（い）と（ん）注（しゅ）を（と）  
 ぬ（る）を（わ）り（と）い（ひ）わ（せ）ぬ（ま）病（び）さ（ら）く（は）ま（ら）く（と）啼（な）を（  
 ろ）事（こと）に（り）と（同（どう））四（よ）又（また）志（し）ま（わ）る（と）（こ）林（はやし）田（でん）吉（きち）之（の）初（はつ）志（し）を（希（い））ふ（ふ）に（あ）

の宣（のたま）えし初（はつ）め。和（わ）太（た）か（ら）し（い）は（た）を（希（い））ふ（ふ）に（あ）  
 半（はん）を（あ）ら（り）し（る）を（い）う（ま）退（とりの）ま（と）ま（ま）ま（ま）の（夜（よ））と（れ）  
 と（よ）の（ご）と（三（さん）人（にん）を（女（め）の）の）り（の）は（い）さ（せ）び（そ）う（た）掛（か）ら（ぬ）や（り）行（ゆ）  
 一の（い）家（い）中（ちゆう）梶（か）す（衣（い）よ）わ（い）事（こと）も（ま）ま（ま）初（はつ）志（し）の（方（か））ま（ま）て（遣（は）  
 う（ま）ま（ま）（づ）こ（づ）ま（す）あ（た）ん（と）（づ）ま（し）と（我（わ）が）恨（い）  
 と（う）ん（と）ゆ（よ）ず（の）分（わけ）あ（ら）む（や）と（し）て（ま）主婦（か）は（ま）嘉（か）  
 そ（れ）よ（う）と（け）く（と）ぬ（ら）ぬ。梶（か）す（衣（い）よ）わ（い）方（か）へ（い）と（ん）注（しゅ）を（と）  
 ぬ（る）を（わ）り（と）い（ひ）わ（せ）ぬ（ま）病（び）さ（ら）く（は）ま（ら）く（と）啼（な）を（  
 ろ）事（こと）に（り）と（同（どう））四（よ）又（また）志（し）ま（わ）る（と）（こ）林（はやし）田（でん）吉（きち）之（の）初（はつ）志（し）を（希（い））ふ（ふ）に（あ）

ねんじら共ありき。意趣ともいふべし。さうして、  
 さうして、いかに、城下とまきのあし。ついで、まき、  
 びし。十二、妹おだん十一、かり。まき、まき、  
 膝下の家、安間小に、肩こり。人のいじ、あなれ、  
 ものども、さう、ついで、まき、まき、  
 かんく、まの、持、まぎ、ち、まら、まら、  
 ろ、ま、げ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
 とい、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
 け、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
 け、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
 とい、ま、ま、ま、ま、ま、ま、



父の仇とてつづかぬとて申す。此父小戸希小新治。
 本そ糸門候より預といふに希を成りつゝと
 八咫のあぐ。本所事とてなく剛強の老りなげやや
 志わつとて満ち和いまで筋事かゝ者一人の好一か
 是と。此書はつういふに子も父の事とて申す。
 治とて兄の事と二十の弟ハ女にけり父おむつて人
 の内一人満ち和い候えとて仇と訴るを成らるる。
 小戸これ候うあづさういふは父の仇とてはくはく
 老りなげ小文治満ち和とてつづかぬとて。相候はくはく
 此女日ひあづさう族の事とて申す。
 一は下。同正月十八日の事と族とてつづかぬとて申す。

小戸希が親へ奉りつゝ。何ものし小平をきも對面と
 まる林田事一和が事と。橋川本所事と。一平と。
 花や一兄弟か。本所事と。父の仇と。
 らるの中。右解の傳はくはく。是は。
 と。つづかぬとて。入は。
 此女も。
 伊勢路。
 満ち和の仇と。
 本所事。
 此女の仇と。
 本所事。



とてんがわね草よわーくわねくわりのしがせきあうらせ  
 ようつと笑われぬ女の。境界としきんと音成り。修勢  
 への後海するまに日影の伸めて悪風よわの同根十八人  
 一はよるの水くづとなりとほまことれ人の罪因果歴  
 然の形ちそほぶあまきりり

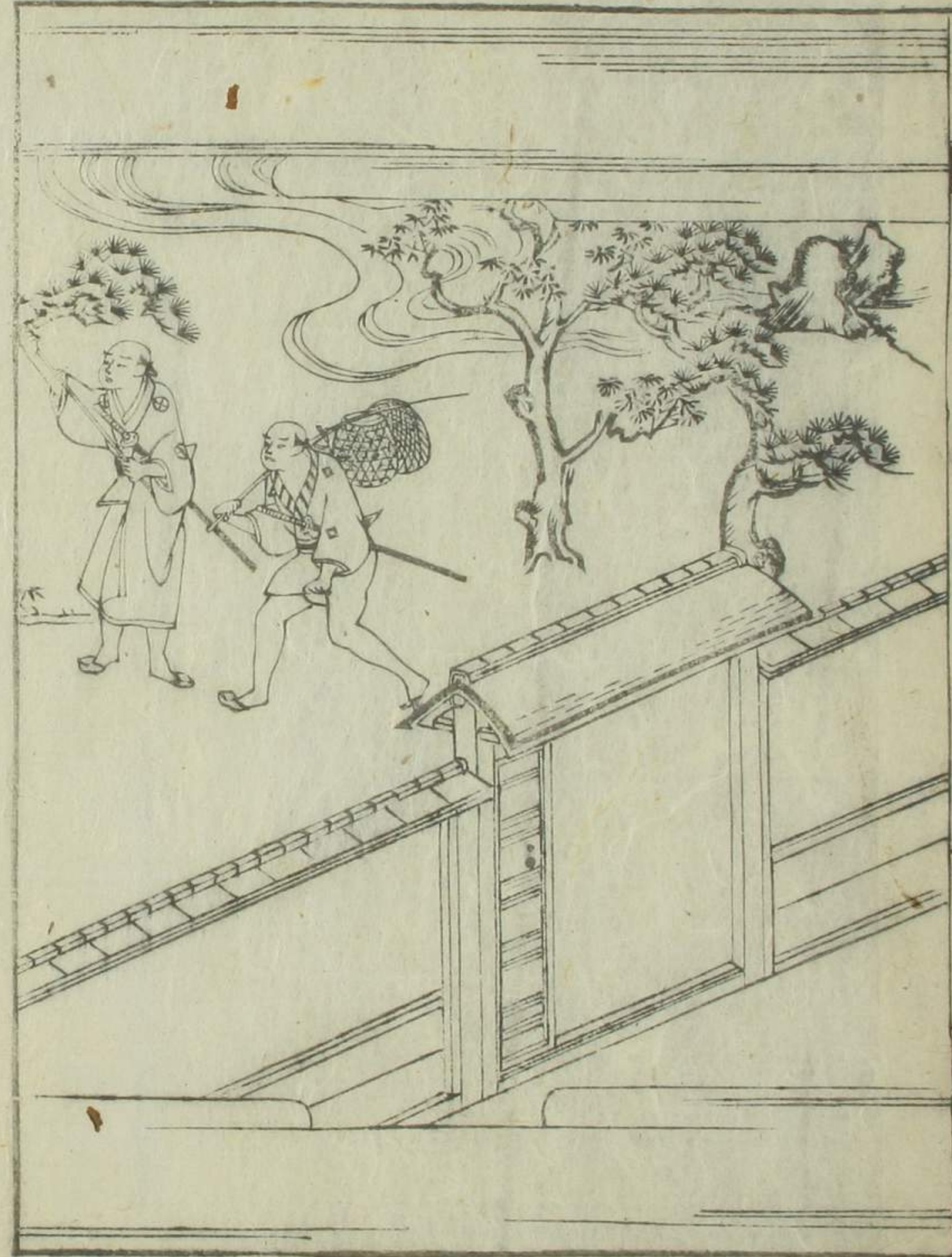
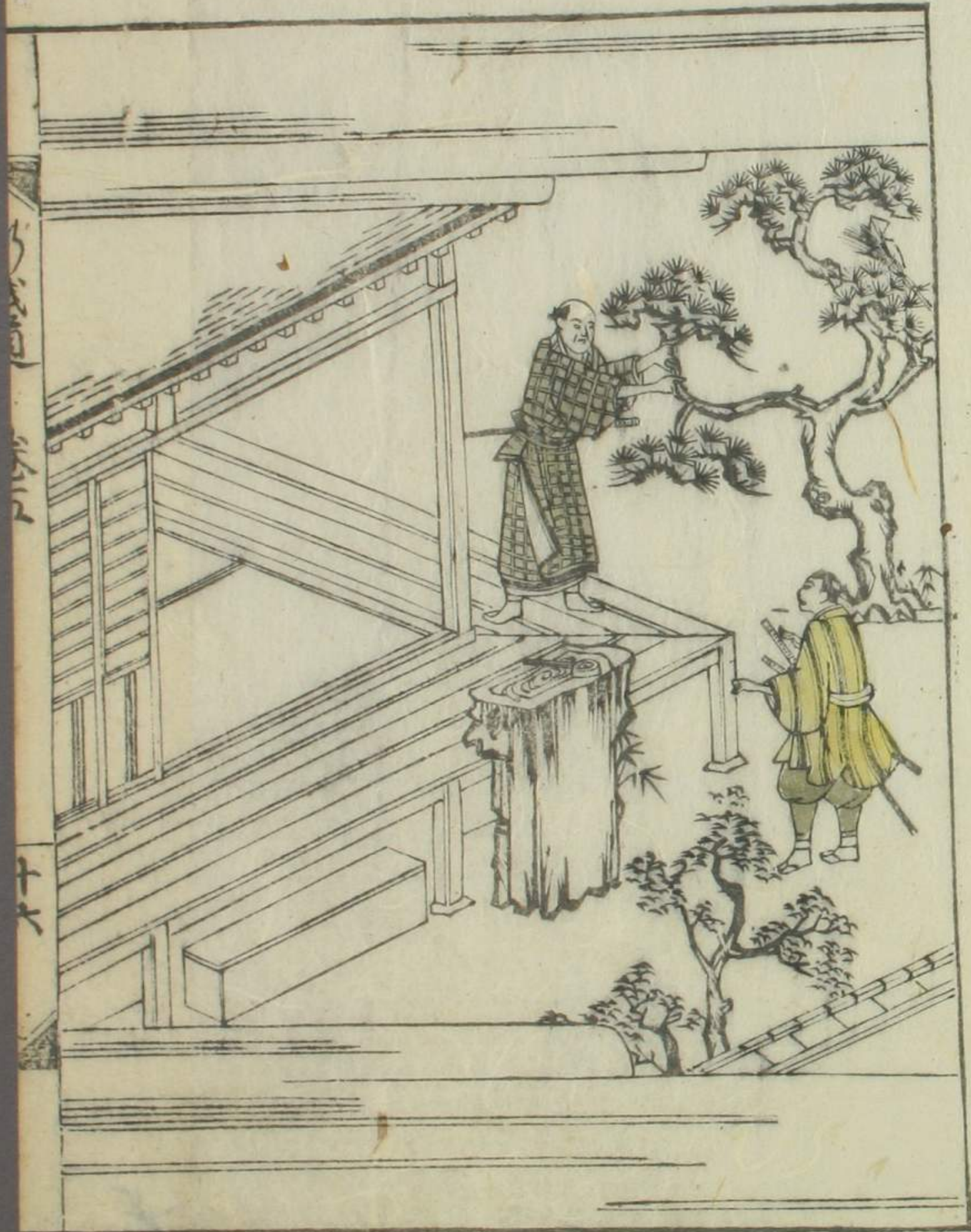
一樹の風吹か一枝

あーるく山にほまきとあまきりりともおびあめぬに  
 せいらくぶんとてせと。められとりてふあからりといれ  
 そはに情さつまをゆべと。か身とわつり力こ枝  
 うでとせほりあふりものまのあはれ一葉の扶天下  
 へんてた目的から。桐つとつらとまらうりれ後あめ。

船多くわられる道とどなれいぶわとる曉とてし  
 てほらとてとていりちとていり白屋あはれ志が修とて更  
 子とと九多る。桐はとと二男は清らうりてあま女房  
 ハ清ととあまいといこくはゆへ信ととあまの煙乃おまつた  
 と九多るがいりてとらたもちうてゆくとへと九多るあま  
 たりとてあまあまの字像とてあま中あまをたらとて  
 清らとてあまとい十八人の意とあまらりてれらとて困と  
 くとを人押除し。鳥の餌とてあまはとてあまをたけらとて  
 つとあまといとてあまといとてあまといとてあまといと  
 小まの八平あつとてあまといとてあまといとてあまといと  
 門とてとてあまといとてあまといとてあまといとてあまといと







新古今和歌集

十六

新古今和歌集

十五



齋所よりえんがふ事どもとぞくけ方し二人をこれらと  
 かりその方し兄弟とてに討ておとせしけりあつた盛忠  
 とぬ信を素たに討てまんといふ信を素方あつた人といふ  
 次中より信を素りも切後して死にけりあつたあつた  
 信を素の信を素つる事あつたといふとそれの事なりとて  
 是れよりつる信を素が同志八有栖子にあつたより志願  
 が一家を事家あつたの事信を素とていふといふといふ  
 ととてあつたといふこととて双方共同組を頭たふ両方にわ  
 けく信を素とていふこととていふ事あつたといふ事  
 とていふこととていふ事あつたといふ事あつたといふ事  
 大馬成代の事あつたといふ事あつたといふ事あつたといふ事

とぞく家や同組のつらういふ事とていふ事とていふ事  
 守に下あつた。大守は是れと大よとて後あつた。双方共組  
 らとていふ事あつた。いふ事あつた。いふ事あつた。いふ事  
 あつた。いふ事あつた。いふ事あつた。いふ事あつた。いふ事  
 一から藤田知解由信を素が組及赤羽之水といふ事あつた  
 野間人の事あつた。いふ事あつた。いふ事あつた。いふ事  
 陣門のつらういふ事あつた。いふ事あつた。いふ事あつた。いふ事  
 といふ事あつた。いふ事あつた。いふ事あつた。いふ事あつた。いふ事  
 か組士二十人といふ事あつた。いふ事あつた。いふ事あつた。いふ事  
 士五十人といふ事あつた。いふ事あつた。いふ事あつた。いふ事あつた。いふ事  
 といふ事あつた。いふ事あつた。いふ事あつた。いふ事あつた。いふ事あつた。

うゝ。子とて見のはたれあつたまで。おのよとゆゑをゆかふ。  
ゆゑとてゆゑかひなき。他國へ行くべし。他  
國下され。かゝるとあ人を熱のますりね。けし人神とゆ  
ゆゑとて。双方を養子の縁作り。ゆゑとてあり。  
あけふあふく。ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。  
ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。  
ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。  
ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。  
ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。  
ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。



とじりい。この。ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。  
ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。  
ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。  
ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。  
ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。  
ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。  
ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。ゆゑとて。



九和

